

第 5 財 政 状 況

1 中央卸売市場会計

(1) 財政状況

市場事業は、地方公営企業法の財務規定等の一部適用事業として、独立採算を原則に運営している。

市場会計は、昭和47年度から平成元年度まで経常損益での赤字が続き、昭和63年度の旧神田市場等の跡地売却に伴う受取利息の増加により、平成2年度から平成6年度まで黒字となったが、営業費用の増加と受取利息の低下などにより、平成7年度に再び赤字となり、それ以後、赤字幅が拡大した。

このため、今後の施設整備財源を確保し、市場財政の健全化を図るため、経費節減等事業の効率的運営を徹底するとともに、平成12年4月に16%（12年度8%、13年度14%、14年度16%の段階的実施）の使用料改定を行い、平成19年度に企業債繰上償還による支払利息の圧縮を行った。こうした取組により、平成12年度から平成27年度にかけて黒字で推移してきたが、平成28年度以降は、豊洲市場への移転準備経費の増加や豊洲市場の減価償却費等の影響などにより、赤字となっている。

こうした状況の中、中央卸売市場が都民に生鮮品等を円滑かつ安定的に供給する基幹的なインフラとしての役割を、将来にわたって果たすことができるよう、今後の市場経営のビジョンを示すものとして、令和3年3月に東京都中央卸売市場経営指針を策定した。また、令和4年3月に、指針で掲げた「2040年代の中央卸売市場の姿」及び「持続可能な市場経営」の実現に向けて、令和4年度から令和8年度までの5年間を計画期間とし、都が取り組む施策と財政計画を示す中期経営計画である、東京都中央卸売市場経営計画を策定したところである。

今後は、東京都中央卸売市場経営指針及び東京都中央卸売市場経営計画に基づき、遅くとも2040年代の経常収支黒字化に向けた取組を推進し、持続可能な市場経営を実現していく。

(2) 令和5年度予算概要

中央卸売市場は、消費者ニーズの多様化や流通環境の変化、新型コロナウイルス感染症のような新たなリスクへの対応など、卸売市場を取り巻く環境が大きく変化する中であっても、都民の日常生活に不可欠な生鮮品等の円滑な流通と安定した供給を確保するため、重要な役割を担っている。このため、各市場の現場における日々の課題解決と、東京都中央卸売市場経営計画の着実な推進を図るため、令和5年度予算においても限られた財源を重点的、効率的に配分して市場の抱える重要課題に対応できるものとした。

支出予算の総額は、890億2千1百万円で、令和4年度に比べ64.3%、金額で348億5千5百万円の増加となっている。

収益的収入と資本的収入の合計額は、234億3千1百万円となっており、収入と支出の差し引きでは655億9千万円の支出超過となっている。

ア 収益的収支

収入としては、営業収益が182億2千2百万余円で、内訳は、売上高割使用料が37億4千1百万余円、施設使用料が90億2百万余円となっている。

営業外収益は、51億8千万余円で、内訳は、一般会計補助金が31億7百万円、受取利息等が20億7千3百万余円、となっている。

これら営業収益、営業外収益を合わせた収益的収入の合計は、234億3百万円である。

支出については、市場事業費の総額が 435億 2 千 6 百万円で、そのうち、営業費用が 338億 9 千 1 百万余円である。

営業費用のうち、人件費及び一般管理等に要する経費である管理費が 197億 7 百万余円、業務の指導・監督及び生鮮食料品の統計資料作成等の経費である業務費については、 1 億 8 千 4 百万余円である。

減価償却費、資産減耗費は、固定資産の減価償却及び除却損等を計上し、 139億 9 千 9 百万余円である。

営業外費用は、29億 5 千万余円であり、このうち、生鮮食料品の流通の安定及び消費者への食生活情報の提供等に要する経費である生鮮食料品流通対策費が、 16億 3 千 7 百万余円となっている。

支払利息及企業債取扱諸費は、 9 億 4 千 7 百万余円で、その他、繰延勘定償却、消費税及地方消費税、雑支出を計上した。また、特別損失を 66億 8 千 3 百万余円計上している。

イ 資本的収支

収入は、国庫補助金の 2 千 8 百万円となっている。

支出は、市場施設の整備等に要する経費であり、総額は 454億 9 千 5 百万円である。

このうち、建設改良費は 56億 2 千 8 百万余円であり、内訳は施設拡張費が 9 億 5 千 9 百万余円、施設改良費が 46億 4 千 1 百万余円、工器具・備品等の購入に充てる資産購入費が 2 千 7 百万余円である。

今年度予算で計上した市場別の主な施設整備内容は以下のとおりである。

市場名	内 容
豊 洲 市 場	熱量計測システム更新工事
食 肉 市 場	市場棟北側冷蔵庫改修工事
大 田 市 場	青果棟卸売場屋上防水改修工事
豊 島 市 場	低温倉庫照明器具取替工事
淀 橋 市 場	淀橋市場拡張整備事業実施設計
足 立 市 場	冷蔵庫棟改修工事
板 橋 市 場	第二低温倉庫低温設備更新工事
世 田 谷 市 場	青果卸売場等水銀灯照明器具取替工事
北 足 立 市 場	花き棟・東京都事務室等照明器具取替工事
多 摩 ニ ュ ー タ ウ ン 市 場	仲卸売場特定天井対策・照明器具更新工事
葛 西 市 場	花き棟エレベータ改修工事

その他、企業債償還金が 398億 4 千 8 百万円、投資が 9 百万円、国庫補助金返納金が 9 百万余円である。

(3) 令和5年度中央卸売市場会計予算総括表

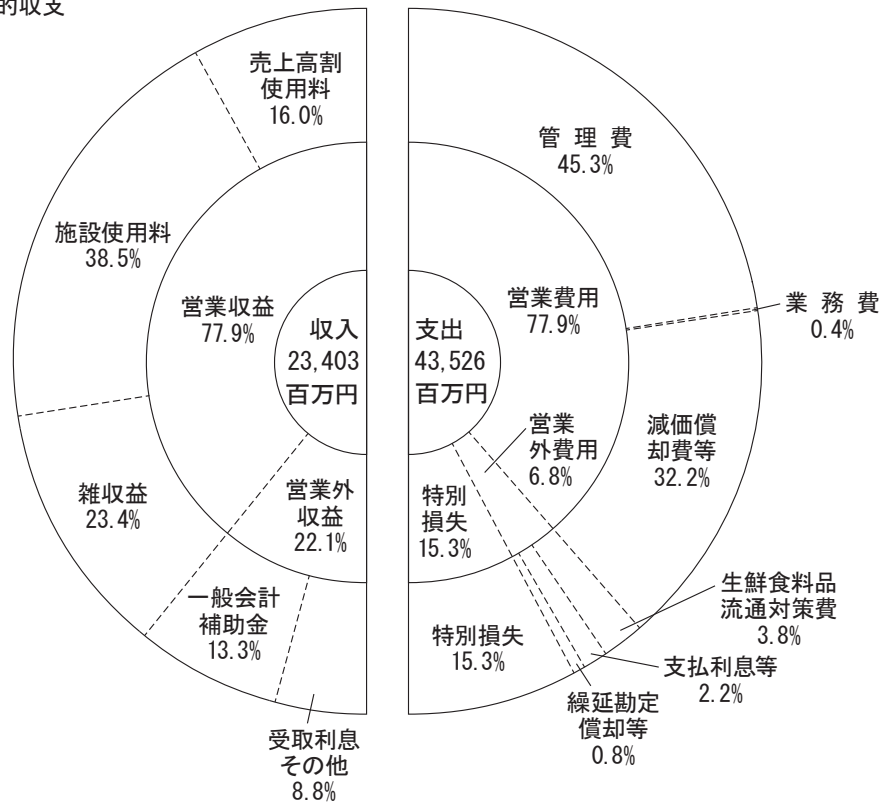
(単位：千円)

科		目	令和5年度 当初予定額	令和4年度 当初予定額	増(△)減
収 入	営業 収益	売上高割使用料	3,741,237	3,589,937	151,300
		施設使用料	9,002,763	8,988,063	14,700
		雑収益	5,478,875	4,862,548	616,327
		計	18,222,875	17,440,548	782,327
	営業 外収益	一般会計補助金	3,107,000	2,996,000	111,000
		受取利息その他	2,073,125	2,033,452	39,673
		計	5,180,125	5,029,452	150,673
		特別利益	0	0	0
		合計	23,403,000	22,470,000	933,000
	支 出	営業 費用	管理費	19,707,456	18,651,544
業務費			184,521	170,086	14,435
減価償却費等			13,999,467	14,061,882	△62,415
計			33,891,444	32,883,512	1,007,932
営業 外費用		生鮮食料品流通対策費	1,637,046	1,643,292	△6,246
		支払利息及企業債取扱諸費	947,926	995,906	△47,980
		繰延勘定償却等	365,345	495,607	△130,262
		計	2,950,317	3,134,805	△184,488
		予備費	1,000	1,000	0
		特別損失	6,683,239	7,455,683	△772,444
	合計	43,526,000	43,475,000	51,000	
	収支差引額	△20,123,000	△21,005,000	882,000	
資 本 的 収 支	入	企業債	0	0	0
		一般会計出資金	0	0	0
		国庫補助金	28,000	0	28,000
		その他資本収入	0	0	0
		計	28,000	0	28,000
	出	建設改良費	5,628,457	3,888,457	1,740,000
		企業債償還金	39,848,000	6,784,000	33,064,000
		投資	9,000	9,000	0
		国庫補助金返納金等	9,543	9,543	0
		計	45,495,000	10,691,000	34,804,000
	収支差引額	△45,467,000	△10,691,000	△34,776,000	

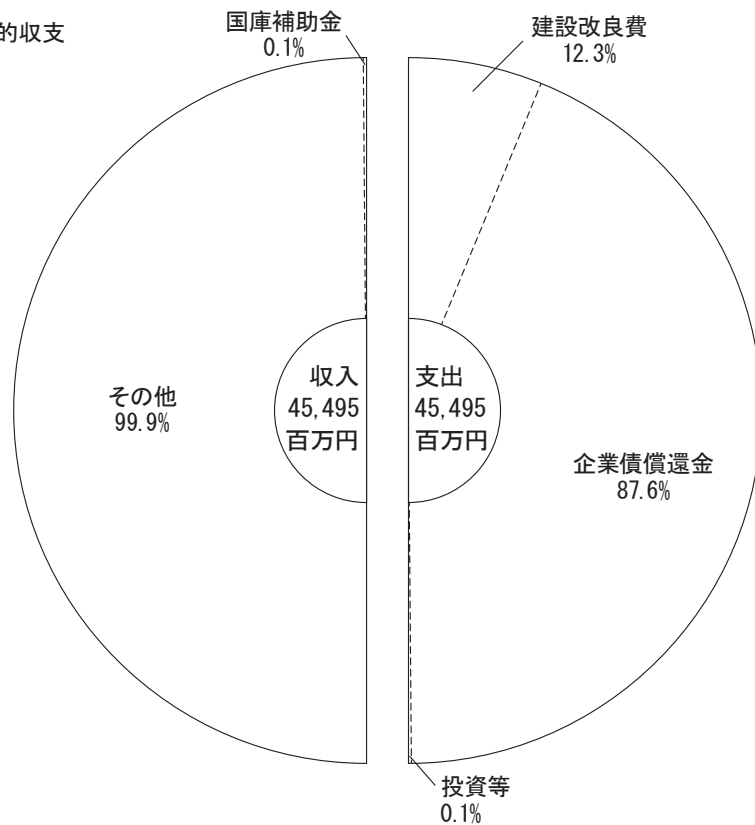
(注) 資本的収入が、資本的支出に対し不足する額は、〔損益勘定留保資金その他〕をもって補てんする。

(4) 令和5年度中央卸売市場会計予算の構成割合

ア 収益的収支



イ 資本的収支



2 と 場 会 計

(1) と場会計の現状

と場における経常的経費の主なものは、と畜解体作業及びと場施設の維持管理に係る経費であり、財源としては、と畜使用料が主たる収入となっている。

また、施設整備については、と場施設の拡張、改良が主なものであり、その財源としては都債、一般会計繰入金等となっている。

(2) 令和5年度予算概要

と場会計は、芝浦と場の維持管理費及びと畜解体業務に係る経費を計上しており、予算の総額は、令和4年度に比べて8千1百万円増の61億9千9百万円となっている。

と場施設整備の主なものとしては、衛生等改善工事がある。

ア 歳 入

と畜使用料及びと場手数料、一般会計繰入金、都債等で、歳入の合計額は61億9千9百万円で、令和4年度に比べて8千1百万円の増となっている。

イ 歳 出

と場の管理・運営及び施設整備等に要する経費で、管理費、運営費、施設整備費等を合わせた歳出の合計額は61億9千9百万円で、令和4年度に比べて1.3%、金額で8千1百万円の増となっている。

内訳は、と畜事業に従事する職員の給料等である管理費が19億1千6百万余円、と場の維持管理及びと畜解体作業に要する経費である運営費が30億9千5百万余円、大動物棟、小動物棟、水処理センター等の整備に係る経費である施設整備費が11億3千5百万余円となっている。

公債費会計繰出金5千1百万余円は、都債の元金及び利子の償還金に充てるものである。

(3) 令和5年度と場会計予算総括表

(単位：千円)

科 目		令和5年度 当初予算額	令和4年度 当初予算額	増(△)減
歳 入	使用料及手数料	1,343,158	1,358,009	△ 14,851
	繰入金	3,682,000	3,857,000	△ 175,000
	諸収入	55,841	57,990	△ 2,149
	都債	1,118,000	845,000	273,000
	繰越金	1	1	0
	合 計	6,199,000	6,118,000	81,000
歳 出	と場事業費			
	管理費	1,916,969	2,266,618	△ 349,649
	運営費	3,095,034	2,917,291	177,743
	施設整備費	1,135,107	854,078	281,029
	公債費会計繰出金	51,890	80,013	△ 28,123
合 計	6,199,000	6,118,000	81,000	

(4) 令和5年度と場会計予算の構成割合

